

楚死三山より古を五帝三王の禮を執德と
と云く良実の後郡目とめて下あふ人よや
秋版の上へ旭の一字を五帝三王の禮に
傳り多日書寫を集て國の事記を鐸束。
は讀太平記十七と毫持氏雅子而く沈落の
案下に日光山の縁記を引たりそうち
有字此中ねと云く公仁 勅勅の角とな
をのひて陸奥とさぬひ小野の里朝日の
も若の許へ立よとをのふ事あり出羽國の
陸奥越後二國より裂くもよとて陸奥と

いひて南はとを急する事古書に其例數
多あり東鑑ふも奥州あふとあり出羽を
急する文あ之體も日光の縁記は陸奥の小
野といへり南の小野よとて古人旭
版新九帝といへり朝日も若の祿号の跡を
ふにや且古人或らるる海山へ 勅使と
て下あふ長若の殿へ立よとをのふといふ
も有字此中ねの 勅勅を急りて立よとを
あふ事を云傳へ傳りやたのふ朝日も
若といふり一人は良実の後
良実の出羽郡目と補
きられり仁嗣乃
神皇とて